

為替市場予想レポート（日刊と週刊）Techni Hedge Forex の読み方

「Techni Hedge Forex」レポート執筆チーム

■ 前書き：

当マニュアルは、日刊および週刊の Techni Hedge Forex レポート（以下本レポートと表記）に記載されている内容、表記、用語などについて解説してあります。レポート購読を検討されている方にはサンプルレポートと並ぶ重要な事前開示文書となります。すでに購読されている方には参考書、ヘルプとなります。

本マニュアルは二部構成となっており、主文と Appendix に分かれています。

購読を検討されている方は本マニュアルの主文を全て読まれた上で、レポートがご自分のニーズに適ったものであるかどうかを的確に判断してください。主文の内容そのものが理解できない場合は、レポートの購読は適切ではないと考えられます。

Appendix に書かれていることも重要ですが、購読開始に際しては、必ずしも事前に理解する必要はありません。

■ 分析対象：

本レポートでは次の為替通貨を扱っています：

日刊レポート：

ドル円、ユーロ円、ユーロドル。以上 3 通貨のみ。

週刊レポート：

ドル円、ユーロ円、ユーロドル、ドル・インデックス、ポンド円、ポンド米ドル、ユーロポンド、豪ドル円、豪ドル米ドル、米ドルカナダドル、ドルスイス、ユーロスイス、スイス円。全てスポット価格の価格変動を分析しております。

本レポートで引用される価格は「スポット価格」に対して有効です。スポットはキャッシュとも呼ばれています。内外先物市場で取引されている通貨先物価格に対しては有効ではありません。

本レポートは計算の根拠となる価格変動データを銀行間電子取引とインターバンク及び世界最大の金融情報ベンダーのデータ子会社等から取得しております。ネット FX 価格も取得はしていますが、計算には使用しておりません。本レポートの指定するシステム取引情報がネット FX 取引にそのまま当てはまるかどうかは、厳密に言うと事前に検証不可能です。ネット FX は過去の長期に渡る価格変動履歴を個々の提供元から入手する事が困難だけでなく、それぞれの差異が大きい為に、事前の調査が不可能である為です。

本レポートは日刊では3大通貨の短期日足、中期週足、長期月足を分析対象とします。又、週刊レポートでは下記目次例に示したように、主要通貨には日足の分析も参考として提供してあります。

(下記：レポート第1ページ目次例)

ドル円・長期予想：ドル長期強気転換。	2
ドル円・中期予想：中期弱気中。	3
ドル円・短期予想：短期弱気転換。	3
ユーロ円・長期予想：長期強気中。	4
ユーロ円・中期予想：中期弱気中。	5
ユーロ円・短期予想：短期弱気中。	5
ユーロドル・長期予想：長期弱気転換。	6
ユーロドル・中期予想：中期弱気転換。	6
ユーロドル・短期予想：短期弱気転換。	7
ドル・インデックス：長期強気中。中期強気転換。	8
ポンド円：長期強気転換試行中、中期弱気転換。	9
ポンド米ドル：長期弱気中。中期強気中。	10
ユーロポンド：長期強気中。中期弱気中。	11
豪ドル円：長期強気中。中期弱気転換。	12
豪ドル/米ドル予想：長期弱気中。中期強気中。	13
米ドルカナダドル：長期弱気中。中期強気転換。	15
ドルスイス：長期強気中。中期強気転換。	16
ユーロスイス予想：中期横ばいから下方向へのブレイクアウト継続中。	17

なお週報のドル円、ユーロ円、ユーロドルの本文内容は、日刊の週末号と同じ内容です。週報にはチャートが添付されている点が異なるだけです。日刊と週報はセットでのみ購読できます。

■ 「テクニヘッジ」名称の由来：

本レポートは1989年、在欧州大手主要銀行と商社、機関投資家、多国籍大企業の中期的、長期的通貨ヘッジをサポートする目的で刊行されたという経由があり、テクニカル・ヘッジという意味で『テクニヘッジ』と名付けられました。その後、官公庁、ヘッジファンドなども読者に加わり、短期的予測手法を追加して、短期から長期観測に至る多角的な価格分析情報を網羅して今日に至っております。2005年以降はこれ等の情報の簡易版を本邦の個人投資家にも提供するようになりました。

■ その趣意：

純粋な実需ヘッジあるいは収益追求型の中長期運用、短期投機型の運用等を、独自の相場観で展開しておられる市場関係者に対して、本レポートは有用な第三者分析オピニオンを提供する事を目的としております。

情報の殆どは、テクニヘッジ・システムと呼ばれる独自開発のソフトが計算する、主観を排した取引戦略が中心となっています。重要ファundamentalズに関しては常時言及しておりますが、指数発表のタイミングの影響と事前の織り込み度を知りたいため、主たる興味の対象ではありません。

最もユニークな特色は、購読者の多くが最も苦手とする「天底の判定」と「損切りストップ・ポイント」をリアルタイムで計算し、運用の補助と防衛（＝これもヘッジと言えます）をする点が挙げられます。

■ 売買シグナル：

週報には全通貨のシステム・チャートが掲載されています。

このチャートには直近過去に点灯した全てのシグナルがリアルタイムで記録され保存されています。

チャートの上部に表記された赤色ダイヤモンド印は「売りシグナル」です。

チャートの下部に表記された緑色丸印は「買いシグナル」です。

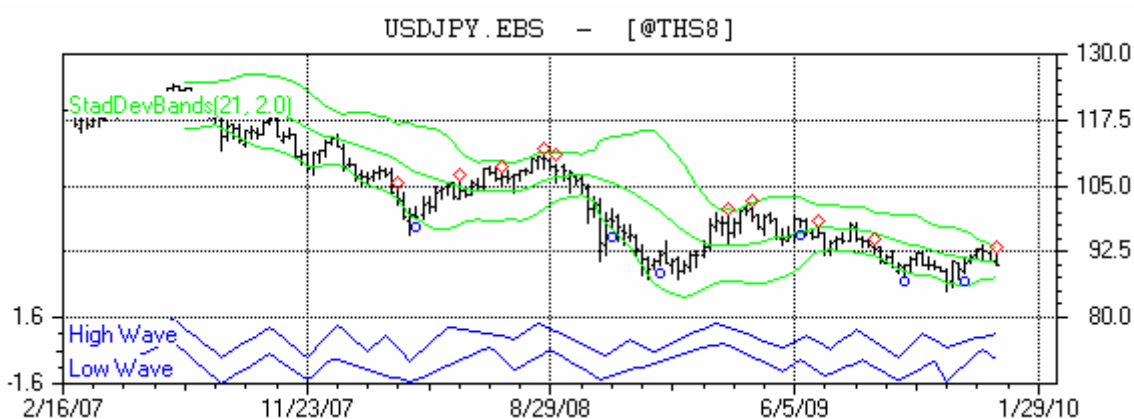
「売りシグナル」では強気が弱気に転換すると予想します。

「買いシグナル」では弱気が強気に転換すると予想します。

システム・チャート上の緑のバンドはボリンジャーバンドです。ただし、これは視覚的参考の為に付されたものであり、シグナルの点灯計算や売買ストップの計算には一切の関係がありません。

チャート下部の High Wave、Low Wave の内部で、すべての売買シグナルは計算されています。このシグナルの計算方法は独自のノウハウであり、レポートの中では一切開示されません。

(レポート掲載のシステム・チャート一例：下図ドル円中期週足売買シグナル：)



買いシグナルの次は売りシグナルというように、交互にシグナルを転換させているわけではなく、出来るだけ多くの最適売買機会を発見できるように、同じシグナルが連続点灯する事があります。機械的に買いの次は売りという順序ではありません。

レポートが扱う全通貨の月足、週足、日足に対して、それぞれに独立した「売買シグナル」が提供されますが、全ての売買シグナルは「単一のユニバーサル・システム」で計算されています。すなわち全通貨の全観測時間枠（月足、週足、日足）において「単一の計算方式」を適用しており、個々のパラメータ適正化を一切しておりません。

その理由は、上記チャートに示された High Wave と Low Wave が全ての時間枠を既に内包しており、計算しているからです。これは世界的にも例が殆ど無い、ユニークなアプローチです。

過去にリアルタイム点灯したすべての売買シグナルの履歴は、チャート上に消去せずに残してあります。そうする事によって、読者は現在点灯中のシグナルの有用性を、過去の例を参照する事によって推測する事が出来ます。

売買シグナルが予測するのは、周期的な相場転換点のみです。実際の市場では全ての相場転換点

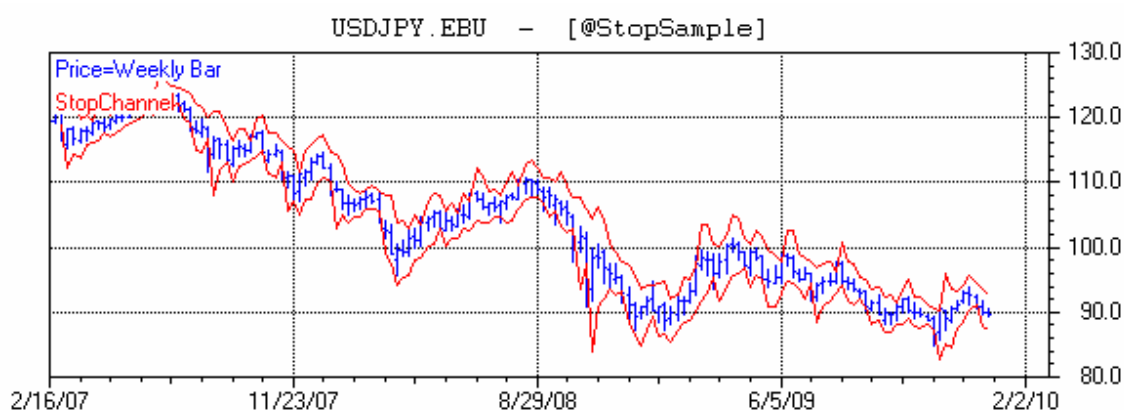
が周期的な根拠で発生するわけではなく、多くは予想外のニュース等による驚きを根拠に方向転換します。

当然の事ながら予想外方向転換を事前に予想する事はできません。短期日足の予想が相対的に難しいのはこの為で、シグナルは中期週足、長期月足では精度が向上し、周期的天井と底をしばしば非常に正確に判定します。

■ 損切り：

天井を売ったつもりが、相場はどんどん上がっていった、あるいは、底を買ったつもりが、急落してしまった。これ等は予想外方向転換とも呼ぶ事が出来ますが、その時の損を予め限定する仕組みが損切り注文です。この損切り水準を事前に設定するのが「売買ストップ」です。多くの取引者がこの損切り水準の決定をもっとも苦手とします。

■ 売買ストップの表記とその使用方法：



(上図：売買ストップ・チャンネルのイメージ：ドル円週足)

「売買ストップ」は二つの目的の為に使われます。一つは「損切り（利益確定）」。もう一つは前述の売買シグナルと同じく、「相場方向の自動認識です」。

レポートではまず現時点での相場認識が明示されます。

1月8日週 91.34 より弱気中。

レポートではいかなる時も強気か弱気かを明示します。これは常にポジションを抱えているプロ

取引者に対応できるように取られた選択で、現実の世界では「良く分からない」というのが常態でしょう。稀にニュートラル (=ポジション無し) 判定を下すことがありますが、事例は非常に少ないといえます。

続いて、今週の売買ストップが次の様に提示されます。

今週の買いストップは 92. 24。 (売りストップは 87. 37)

今週中に買いストップが執行されると、それまで弱気だったポジションが閉じられます。これが損切りもしくは利益確定です。

これに加え、買いストップ方向に新規の強気のポジションも取ります。「売買シグナル」が周期的逆張りであったのに比べて、「売買ストップ」によるポジションは順張りであるという顕著な相違があります。

本レポートでは、全てのストップ執行の執行記録をリアルタイムで本文に掲載しており、過去のレポートのバックアップを遡る事で、ストップ執行の有用性を判定できるようになっています。

また上例のように売りと買いの両方のストップが提示されています。レポートは弱気認識でも、読者は逆に強気の買いポジションを建てている場合、読者は自己ポジションを保護する為に売りストップを使用する事ができます。

ストップは煩雑なためにチャート上には記録されません。

■ 強気と弱気の判定 :

以上の説明でお分かりの通り、本レポートでは

- 1) 常時、強気か弱気であるかの判定を明示する二元主義原則を採用しています。
- 2) だからと言って常時この通りに売買ポジションを持つ事を推薦しているわけではありません。取引者はレポートとは逆のポジションを自由に取る事もできます。そのポジションに対して常時週足ストップが掛けられるように、本レポートの中期観測では同時に売りと買いの両方のストップを週足に対して提示してあります。
- 3) この毎週掲載される「逆張りストップ」に加えて、時折発生する周期的な「逆張り売買シグナル」を組み合わせ、価格変動の方向性を認識管理し、読者に提示していきます。

■ チャートと時間枠の読み方：

長期月足分析：

半年から1年の長期ヘッジを目的とします。しばしば長期天井（または長期底）のシグナルが、長期最高値（または最安値）付近で点灯します。毎月初に見直しをするような長期的運用やヘッジに適しています。

中期週足分析：

数週間から数ヶ月の中期運用やヘッジに適しています。最低週一度、相場をチェックし、週ごとに提示される注文を出すことの出来る方に向いています。なお日足取引者は、中期分析を参照することにより、日足の動きをより大きな次元で支配している中期傾向を知ることが出来ます。

短期日足分析：

デイリーベースの細かいエントリータイミング情報を提供します。毎日一度は相場をチェックして注文を更新できる方にのみ適しています。

===== APPENDIX =====

■ ストップ表記とブレイクアウト表記：

本文中では、「買い（売り）ストップ到達」、「買い（売り）ブレイクアウト発生」などと表記されています。「ストップ」と呼ばれるのは、ストップ注文（逆指値）を使うためです。「ブレイクアウト」と呼ばれるのはストップ指定値を「ブレイクアウト」（飛び越える）して注文が実行されるからです。

「ブレイクアウト発生」という表現は、ストップを飛び越えてその日の引け値もストップを飛び越えたまま終了した場合に使います。押し戻された場合には使われず、「ストップに（一時）到達」と言うような表現が使われます。ブレイクアウト値とストップ値は同じものを指しています。

■ トレンドの概念：

（周期的に点灯した）「売りシグナル」が、その直後に「買いストップ」までブレイクして、方向認識が強気に再転換すると、しばしば、そこから強気トレンドが発生します。

(周期的に点灯した)「買いシグナル」が、その直後に「売りストップ」までブレークして、方向認識が弱気に再転換すると、しばしば、そこから弱気トレンドが発生します。

つまりトレンド発生は、その前提として、周期的期待が直前に裏切られることを意味します。従って、トレンド発生の直前には、熟練した取引者でも、先立つ損失を蒙ることが多いと言えます。

テクニヘッジの取引パターンも同様です。しばしばトレンド発生による最大収益は、その直前に損失を蒙ることによって実現するという経験則があります。

ただし、このアプローチは基本的横ばい市場で適用すると、ダマシにも引っかかりやすいので、注意を促すようにしています。

■ **トレンド・フォロー：**

大規模収益や大規模損失は、その多くが大トレンドに伴って発生します。

本レポートは、「天井と底はある程度予想出来る」、そして「有用な売買ストップの計算も可能である」との立場で市場観測を行います。しかし何時どの程度の規模のトレンドが発生するか予想は困難である事を受け入れます。事前予想できないので、常時ストップを入れておく他に適切にトレンドを捕獲、乃至は回避する手段は無いだらうという前提で、常時ストップを提示しています。

■ **超短期取引：**

日刊レポートには超短期取引も扱っております。これは日足観測より短い取引サイクルの読者を対象にしております。

■ **レポートの限界：**

レポートに提示されたシグナルとストップだけで、市場取引における全ての問題が解決するわけではありません。本個人投資家版レポート購読者の方々には、これらの問題解決のための個々のアドバイスは一切提供しておりません。

■ **ご購入のご案内：**

CLUB FISCO 内テクニヘッジ・レポートのホームページ：

<http://fisco.jp/report/regular/tanakacrm/profile.html>

レポートご購入お支払いの URL:

<http://fisco.jp/report/regular/techhedge.html>

トレーディング ”Arts and Logic” by 田中雅のホームページ：

<http://sec.himawari-group.co.jp/systemtrade/knowledge/tanaka-tadashi/>

テクニヘッジ・レポートは購読者の自己責任による自己判断取引を前提として、その参考となる「システム分析情報」を提供することを目的にしております。本レポートの内容は、情報の正確さ、完全さ、購読者への適正を保証するものではありません。また、いかなる責任を持つものでもありません。本レポートの知的所有権はTanaka CRM, vof. に帰属し、事前に書面による承諾を得ることなく修正・加工・転送・複製等を行うことは堅く禁じられています。本レポートは、価格変動を分析した結果の情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。本レポートを参考にして投資を行った結果、何らかの損害が発生した場合でも、理由のいかんを問わず、責任を負うものではありません。